

ケルステン・マッコール

映画「ロイヤル・コンサートヘボウ オーケストラがやって来る」



ケルステン・マッコール氏

2016年1月より公開される映画「ロイヤル・コンサートヘボウ オーケストラがやって来る」。2013年に行なわれた、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団創立125周年を記念するワールドツアーをめぐるドキュメンタリーだ。この11月、公演のために来日した首席フルート奏者・ケルステン・マッコール氏に、本誌連載「音のまにまに」でもお馴染みの木村奈保子さんがインタビューした。

通訳：久野理恵子／協力：KAJIMOTO

—映画は本当にすばらしかったです。ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の温かいヒューマンフィーリングが映像に現れていたと思います。昨今ではミュージシャンの登場により、「音楽家」が主役になる作品が増えてきました。映画音楽ではなく、「音楽映画」です。音楽家の存在にリアリティが感じられると思うのですが、マッコールさんは、その点についてどう思われますか？

マッコール(以下 M) 私自身が出演した映画ということで、手前味噌ですが、私が信頼する周りの人たちは感動的だと言ってくださいました。そのうえでこの映画はドキュメンタリーである、フィクションではないということです。実際に演奏しているとわかることですが、私たちは単なるメッセンジャーで音楽を届けているだけです。実は音楽は、すべての人々の心に内包されているということをこの作品は取り上げています。そういう意味で、音楽の力が示されていると私は思います。映画の中に登場する南アフリカのヴァイオリンの先生、あいつの方こそが、この映画の主役になっていると思います。

—南アフリカを訪ねて子どもたちと一緒に道端で合奏しているシーンなど、クラシック奏者の方々其自然体で一般の人々と触れ合っているのが印象的でした。マッコールさんは、今まで世界を巡っていて、民族の音楽性に触れた瞬間、そのフィーリングが強く残っているというのはどのようなときでしたか？

M 3週間前にヨルダンに行ったのですが、本当に時間が止まったような、良い意味でも悪い意味でも、過去の中で未だに暮らしているようなところでした。そこにあったのは、民族的な文化と音楽です。昔

からの音楽が残っていました。そういうものに触れるたびに、オリジナルの音楽の力を目の当たりにして感動せずにはいられない。大天才がすごい作品を書いて、良し悪しを批評するという次元のものではなく、もっとごく自然に人々の中であって、分かち合えるもの。まるで、空気や水の存在のようなものだと思います。

—指揮者として10年来、演奏を共にしたマリス・ヤンソンスさんが、来年からはほかの方になるそうですね。ヤンソンスさんとの音楽的な関係はいかがでしたか？

M いなくなるのは本当に寂しいです。彼には感謝の念にたえません。彼の素晴らしいところは、やっていることすべての意味をきちんと与えてくれたということ。特にクラシック音楽はルーティンになりかねないのですが、毎回、この瞬間、瞬間がいかにすばらしいかということを感じさせてくれました。情熱や感情的なアプローチの仕方といった精神的なものも引き出してくれる、素晴らしい方でした。

—楽団では、フルートセクションにエミリー・バイノンさん、ジェリー・ムーランさん、ジョセフィーヌ・オレックさん、と女性が多いのですね。人間関係はどうですか？

M エミリーと私が首席を分けているのですが、首席というのは単純に高い音域、ソロパートがあるときはソロを吹くだけで、だれがリーダーとか、男か女かといったことはまったく問題ではありません。我々の楽団は競争関係がありません。すごく仲が良く、いつも一緒に食事をしたり、ツアーでは一緒に過ごしているので、ほとんど家族みたいです。

続きは、FLUTE ONLINE (<http://www.alsoj.net/flute/>)に掲載します。ぜひご覧ください。

◆映画「ロイヤル・コンサートヘボウ オーケストラがやって来る」



出演：ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団 The Royal Concertgebouw Orchestra
指揮：マリス・ヤンソンス Mariss Jansons / 監督：エディ・ホニグマン / 配給：株式会社SDP
2016年1月より、渋谷ユロススペースにて公開 他全国順次 / <http://rco-movie.com/>

ウィーン・フィル、ベルリン・フィルと並ぶ世界三大オーケストラである、オランダのロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団(RCO)。2013年、コンサートヘボウが創立125周年を記念して、1年で50公演を行なう世界一周のワールドツアーへと旅立った！アルゼンチンから南アフリカ、ロシアへと、気さくな素顔をのぞかせながら、王立御用達(ロイヤル)オーケストラが世界をめぐる。その先方で彼らが出会うのは、音楽を心のよりどころに毎日を生きる人々。文化も境遇もちがう人々がコンサートヘボウのコンサートに集い、その演奏に人生を重ねる瞬間。一人ひとりの心には、かけがえのない宝物が生まれてくる――。



木村 「映画のオープニングシーンで、飛行機に楽器のハードケースを積みむとき、ひとつひとつを銀の断熱材に包んでいたね、あのインシュレーターが実は、このNAHOKケースの中に入っているんですよ」

M 「これがあったら宇宙にも行けるのかな(笑)？ぜひ、使ってみよう」

こちらのフルートケースは、NAHOKのHPで <http://nahok.com>

